

# NEWS RELEASE



セブン&アイ HLDGS.

株式会社 セブン-イレブン・ジャパン

2022年7月19日

CO<sub>2</sub>排出量削減  
を目指して

## 電動車の拡大に向けた

### エネルギー・マネジメントシステムの構築・社会実装に参画

株式会社セブン・イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：永松 文彦）は、Commercial Japan Partnership Technologies 株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役社長：中嶋 裕樹、以下 CJPT）とともに、CO<sub>2</sub>排出量削減を目指し、環境にやさしい車両の拡大に向けたエネルギー・マネジメントシステムの構築・社会実装に参画いたします。

セブン&アイグループの環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』におけるテーマの1つである“CO<sub>2</sub>排出量削減”を進めていく上で、「EV トラック」や「FC 小型トラック」などの電気や水素で走る電動車の活用は不可欠です。一方、このような車両を導入するには、コスト、充電・水素充填時間の長さ、充電タイミングが偏ることによる事業所電力ピークの増大など、さまざまな課題があります。このような課題を改善することを目的に、CJPTとともに福島県・東京都における社会実装に参画し、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業※の中で、CO<sub>2</sub>排出量削減につながる取り組みを進めます。

今後もさまざまな取り組みを通じ、豊かで持続可能な社会の実現を推進してまいります。

※助成事業名「グリーンイノベーション基金事業／スマートモビリティ社会の構築」

#### ＜概要＞

他30社以上の企業とともに、パートナーとして参画いたします。

■実施期間：2023年1月～2029年度末（予定）

■実施場所：福島県、東京都

■実施内容：

①大規模な電動車の導入（約580台※）

②運行管理と一体となったエネルギー・マネジメントシステム構築

i 充電・水素充填タイミングと配送計画の最適化により、効率的な運行を実現させるシステム

ii 事業所内外含めた全体での需要調整、カートリッジ電池活用による電力需要の平準化

※今回実装における全体の車両数

#### ＜ご参考＞

##### 当社の環境車両の取り組み①

水素を燃料とする「FC 小型トラック」の取り組みは世界に先駆けてトヨタ自動車株式会社とともに、2019年4月より神奈川県横浜市の共同配送センターにて実証実験を開始しています。2020年4月からは、栃木県佐野市において温度帯の切り替えが可能な車両に変え実証実験を行っています。



▲店舗配送中のトヨタ自動車「FC 小型トラック」



▲三菱ふそうの新型「EV トラック」



▲沖縄県をイメージさせる花柄のいすゞ自動車の「EV トラック」

### 当社の環境車両の取り組み②

「EV トラック」については、三菱ふそうトラック・バス株式会社の車両を 2018 年 2 月に東京都・埼玉県・神奈川県で導入を開始しました。2022 年には新型車両に変更し、店舗配送に使用しています。

いすゞ自動車株式会社のご協力のもと、2019 年 7 月より、沖縄県にて EV トラック走行の実証実験を開始しております。その後、2021 年 1 月より東京都日野市でも実証実験を行っています。

現在、セブン - イレブン店舗へ商品を配送するトラックは約 6,200 台走行しており、その 7 割以上がクリーンディーゼル車やハイブリッド車、天然ガス車、EV 車などの環境にやさしい車両です（2022 年 2 月末現在）。

今回参画するプロジェクトにおいて、環境にやさしい車両の導入をさらに促進し、さまざまな取り組みを進めながら CO<sub>2</sub> 排出量の削減に努めてまいります。

以上